

松本市における老人会活動の地帯的特性

佐藤慎吾

キーワード：松本市，老人会活動，老人会活動事業費，都市内部，郊外地域，高齢者

I はじめに

わが国では現在、人口の高齢化が急速に進んでいる。65歳以上の人口が総人口に対して7%を超える社会を一般に高齢化社会と呼ぶが、わが国では1970年にこの7%を超えた¹⁾。1980年には、この値が9.1%にまで達し、1960年から1980年までの20年間に3.4%も増加した。このことは、わが国の高齢化の水準が着実に上昇していることを示すだけでなく、その上昇速度が加速度的であることも特徴的である。各国との比較においても、わが国は世界に類例のない速さで高齢化社会を迎えているといえよう²⁾。

この背景には、平均寿命の延長、出生率の低下および死亡率の低下がある。とくに、1991年の平均寿命は男子76.11歳、女性は82.11歳で、諸外国のなかで最も長い水準にある³⁾。これらの要因は、高齢者のライフスタイルにも影響を与えている。出生率の低下は子供の扶養期間を短縮し、平均寿命の延長は一層長い老年期を高齢者にもたらしている。つまり、末子独立後から死にいたるまでの老年期が人生のなかでも長い時間を占めるようになる、その時間をいかに過ごすかということが大きな問題になってくる。

急増する高齢者に関しては様々な学問分野から多角的な考察が行われているが、特に人口学からの分析として、河野や内野の研究がある⁴⁾。河野は人口高齢化の影響について、老人と子供という従属人口の二つのグループに焦点をあて、それら

の相対的地位と生活水準の変化の過程を考察した。また、内野は高齢人口移動の現状とパターンを分析し、高齢人口移動率の展開を類型化することで、その特性を明らかにした。しかし、これらの研究は統計を用いた高齢者の人口移動と人口分布の考察に留まっている。また、高齢者の生活行動・生活空間や居住環境に分析が及んでいない。

近年、これらの課題に応える研究として、地理学の分野から仙田や中鉢などの成果示されている⁵⁾。仙田は高齢者の生活空間を解明するために、アンケート調査や聞き取り調査によって活動範囲と属性との関係やライフヒストリーに着目し分析を行った。その結果、高齢者の余暇活動における空間的範囲は居住する地域に影響を受けていることを示した。中鉢は高齢者の日常行動をアンケート調査やパーソントリップ調査を資料として詳細に検討した。具体的には、安価に利用可能で、公的な施設でもない定期市などが高齢者の外出行動における目的地として選好され、高齢者の余暇活動に結びついていることが確認された。

高齢者の余暇活動の場で、最も代表的な組織は老人クラブである。現行の高齢者福祉体系のなかでは、高齢者の社会参加・生きがい対策の推進組織として位置付けられている⁶⁾。老人クラブは、戦後、高齢者が自主的に結成したことから始まり、1962年には全国老人クラブ連合会が結成された⁷⁾。現在は、全国に約134,000クラブあり、会員数は約880万人に達する⁸⁾。1963年には老人クラブの活動費に対して国庫補助が認められ、活動

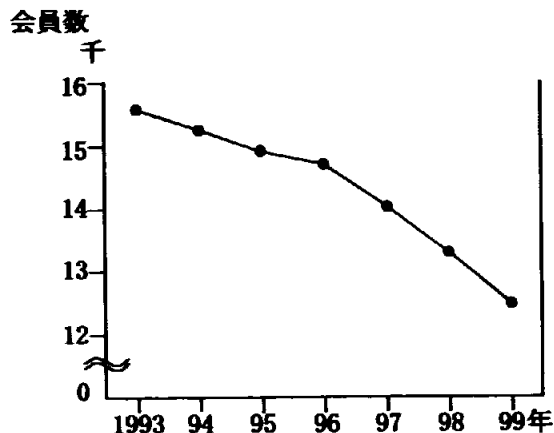
発展の大きな支えとなった⁹⁾。老人クラブは高齢者が自らの力によりその生活を健全で豊かなものにするという目的で、一定の狭い範囲の地域に居住する者同士で組織されるのが一般的である。そこでは、自らの教養の向上、健康の増進、社会奉仕活動による地域社会との交流などが行われる¹⁰⁾。

本研究は老人クラブの活動から高齢者の余暇活動を把握するという視点に立ち、長野県松本市老人クラブの会員数、活動支出額、活動内容を分析し、その特性を明らかにすることを第一の課題とする。さらに、これらの分析から得られた知見をもとにして、松本市老人クラブの地帯的特性を検討する。

上記の課題を達成するために、本研究は以下の分析を行う。Ⅱ章では松本市の老人会活動を加入状況および活動事業費から分析し、老人会活動の地帯的特性を明らかにする。分析に用いる基礎データは、各老人クラブが松本市に提出した「平成10年度老人クラブ活動実績報告書」である。このデータから、各クラブの加入者数、年間の活動内容および活動事業費を把握することが可能である。Ⅲ章では、Ⅱ章を踏まえた上で事例地区を設定し、各地区の老人会の活動内容を検討する。活動内容のデータは上記の報告書と老人会会長に対する聞き取り調査をもとに、ミクロレベルから老人会活動の地帯的特性について考察する。

Ⅳ章では各地区の老人会の活動内容をまとめるとともに、明らかになった知見をもとに松本市の老人会の特性と高齢者の余暇活動について言及する。

松本市には、約50世帯ごとに組織される単位老人クラブが232あり、その会員は減少傾向にあるが12,582人である(第1図)。各老人クラブは単独で活動するだけでなく、行政地区ごとに地区老人クラブ連合会を組織し、活動することがある。地区内の各老人クラブ間では日常的な交流があるが、異なる地区の老人クラブとの共同活動は皆無に近い¹¹⁾。このことから、行政地区を単位地区として老人会活動を検討する。松本市では172の大

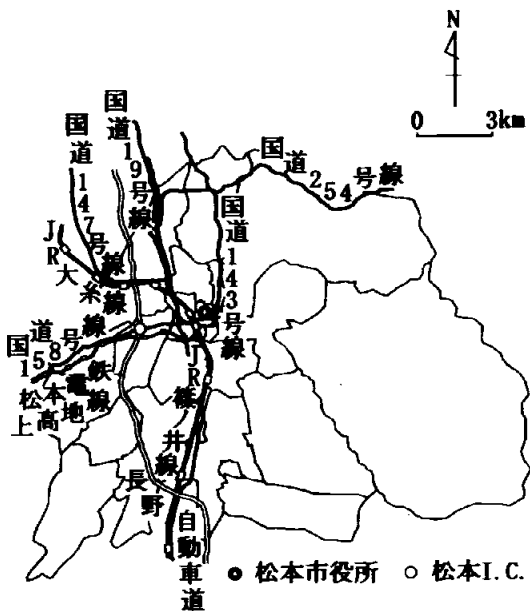


第1図 松本市における老人会会員数の推移
(1993年～1999年)
(聞き取りにより作成)

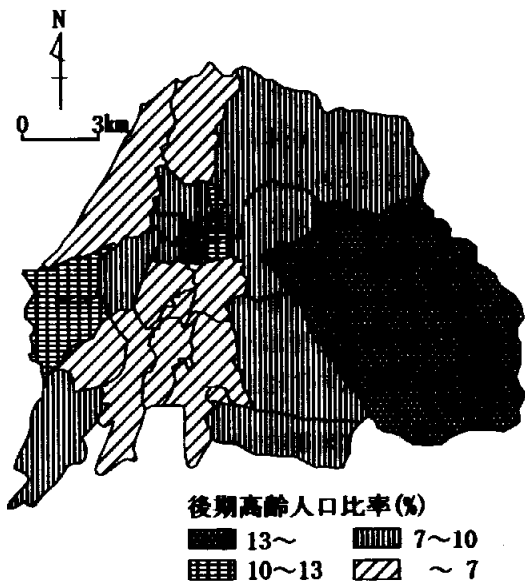
字町丁を29地区に分けた行政地区が地域区分として用いられており、各種の統計資料などがこの単位で公表されている¹²⁾。このことから、行政地区を単位地域とすることは適当であると思われる。

研究対象地域である長野県松本市は、JR篠ノ井線、JR大糸線、松本電鉄上高地線、長野自動車道などが通っており、「中南信」の交通における重要な結節点として機能している(第2図)。1995年の国勢調査によると、松本市の総人口は205,523で、長野県第2位の都市である。高齢人口比率は17.6%で、日本全体の高齢人口比率よりやや高い。行政区別に高齢人口比率を見ると、人口高齢化の進展に地域差が存在することが明らかである(第3図)。特に、市中心部で後期高齢人口比率が高いことが認められる(第4図)。

松本市の中心地域を形成するのは、本庁管内にあたる第1地区、第2地区、第3地区、東部地区、中央地区などの市域の中心部である(第5図)。第1地区、第2地区にはJR松本駅や松本電鉄松本駅が位置する。また、中央地区には市役所が存在するのをはじめとして、市域の中心部には行政施設および大型小売店が集積している。一方、市域の南東部に位置する和田地区、今井地区および西部に位置する入山辺地区でも高齢者率が



第2図 研究対象地域
注) 地区の名称は第5図を参照.

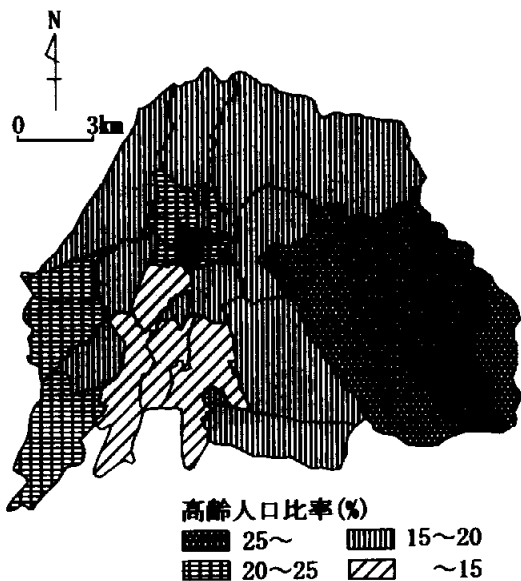


第4図 松本市における地区別の後期高齢人口比率(1999年)

注1) 後期高齢者は75歳以上の人口.

注2) 地区の名称は第5図を参照.

(住民基本台帳調査より作成)

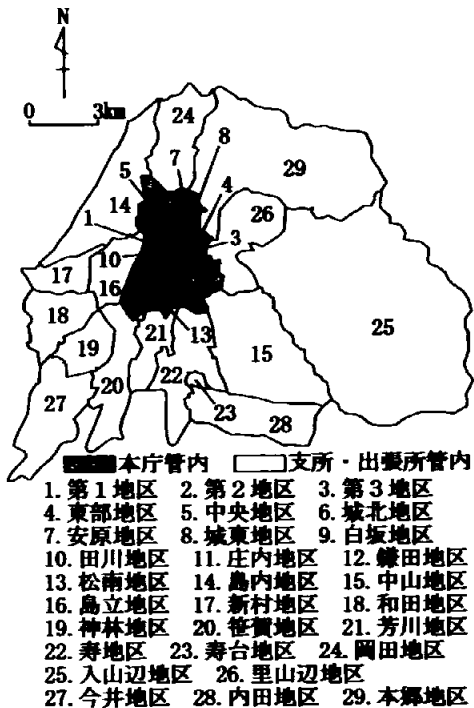


第3図 松本市における地区別の高齢人口比率(1999年)

注1) 高齢者は65歳以上の人口.

注2) 地区の名称は第5図を参照.

(住民基本台帳調査より作成)



第5図 松本市の行政地区

注) 本庁管内は聞き取りによって筆者が作成.

高い。ここでは農的な土地利用が卓越している。松本市の総人口に占める農業従事者の割合が6.3%であるのに対して、これらの地区のそれは20%を越えており、松本市の中でも農村的な要素が卓越する地域である。一方、市域の南部に位置する笹賀地区、芳川地区、寿地区、寿台地区では行政地区の高齢人口比率は低い水準に留まっている。そこでは、宅地開発が行われ、松本市中心部に対する郊外の住宅地域となっている。特に、寿台地区は市内最大の住宅団地がある。

I 老人会活動の地帯的特性

I-1 老人会の加入状況からみた地帯的特性

財団法人全国老人クラブ連合会(1996)の資料を基に試算すると、65歳以上の高齢者に占める老人会加入者の割合は日本全体でおよそ42.9%であった。それに対して松本市における1999年の老人会加入者の割合は36.8%である。調査年次が約3年異なるため単純に比較することはできないが、全国的にみても松本市の老人会加入率は低い水準にあると言えよう。

松本市における行政地区別の老人会加入率を第6図に示した。市域の西部に位置する新村地区、東部の入山辺地区は加入率が60%を越えており、松本市の中で最も加入率が高い。これらの地区は松本市の中でも農村的な性格を有した地域である。

一方、松本市の中で最も都市化が進み、行政施設、商業施設などが集積している市の中心部は加入率が低く、とくに松南地区の加入率はわずかに22.4%である。加入率が40%に満たない地区は、松本市を南北に横断する国道19号線に沿うように分布している。国道19号線は国道143号線とともに、松本市の中心地を走る主要道路である。これらの地域は行政施設、商業施設、住宅地などが多く、松本市の中でも都市的な地域である。これに加えて、郊外の住宅地域である芳川地区、寿地区および寿台地区の加入率は特に低い。

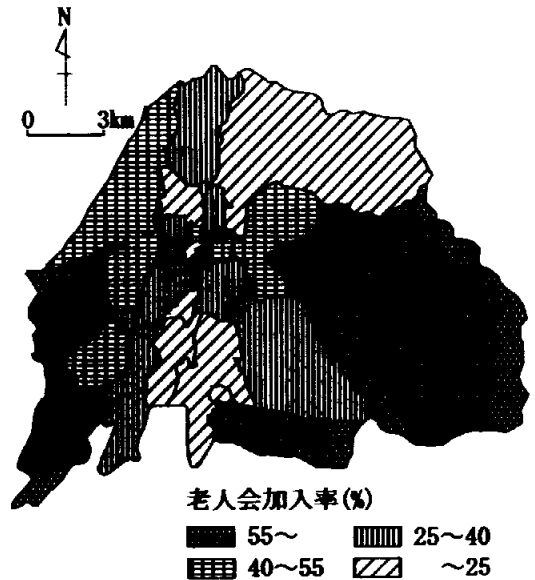
松本市における老人会加入率の地域的な特徴として、市域の東部および西部の農村的な地域で加入率が高く、都市化の進展した国道19号線および

国道143号線に沿った市域の北部や南部において加入率が低いという傾向が認められる。

I-2 老人会の活動事業費からみた地帯的差異

年間を通して、老人会活動はスポーツや文化・学習活動をはじめとする「生活を豊かにする楽しい活動」およびボランティア活動や世代間交流をはじめとする「地域を豊かにする社会活動」から構成される。これらの諸活動に要する経費は、各老人クラブごとに、会員の会費によってまかなわれるのが基本である。

地区による活動事業費の差異を検討するために、松本市における地区別の老人会加入者1人当たりの年間支出額を第7図に示した。まず、農村的な性格を有した地域で年間支出額が少ないことがあげられる。市域の西部に位置する新村地区、神林地区、東部の入山辺地区、南部の内田地区は年間支出額が2500円に満たない。一方、都市化が進んでいる市域の中央部に位置する田川地区、松



第6図 松本市における地区別の老人会加入(1998年)

注) 老人会加入は、高齢人口に占める老人会加入人口の割合(%)。

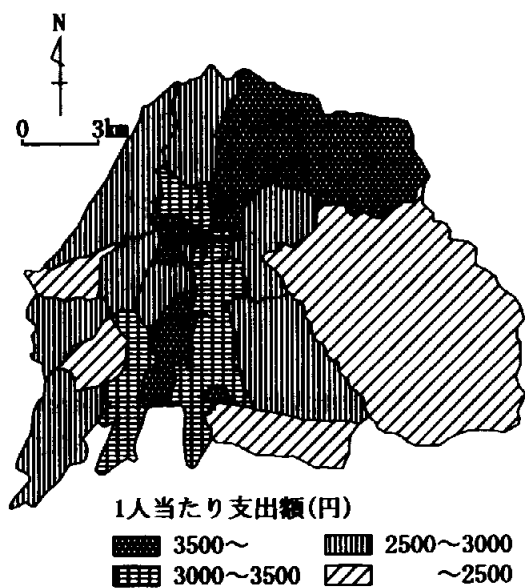
(平成10年度老人クラブ活動実績報告書及び住民基本台帳調査より作成)

南地区、南部の芳川地区および寿台地区は年間支出額が4000円を超えている。

松本市における老人会加入者1人当たりの年間支出額の地域的な特徴として、市域の東部および西部の農村的な地域で支出額がおさえられており、行政施設、商業施設、住宅地などが多い都市的な地域の中央部および南部において支出額が高いという傾向が認められる。また、老人会加入率(第6図)が高い値を示す地区では、支出額が少ない傾向がある。

Ⅲ 都市地域、郊外農村地域、郊外住宅地域における老人会活動の地帯的特性

本章では、松本市中心部の中央地区、郊外農村地域の内田地区、郊外住宅地域の寿台地区を事例地区として、マイクロレベルから老人会活動の分析を行う。



第7図 松本市における地区別の老人会会員1人当たりの支出額(1998年)

注) 1人当たりの支出額は当該地区における老人クラブ活動支出額を当該地区における老人会会員数で除した額。

(平成10年度老人クラブ活動実績報告書より作成)

Ⅲ-1 中央地区、内田地区、寿台地区における老人会活動事業費

中央地区、内田地区、寿台地区における活動内容の差異を検討するために、1998年度における事例地区別単位老人クラブの事業費規模とその配分内容を第8図に示した。

中央地区の各老人クラブは年間支出総額が多く、とくに老人会番号1および6の老人会の年間支出総額は25万円を超えている。ボランティア活動事業費は低額で、なかでも老人会番号5の老人会は清掃奉仕中の菓子代5,140円のみである。しかし、生きがい・教養講座開催事業費および健康増進等活動事業費は、支出総額に占める割合も高く、老人会番号1, 6, 7の老人会では事業費が10万円を超えている。また、役員会議でのお茶代、慶弔費、親睦旅行費などの経費であるその他の事業費



第8図 松本市における事例地区の老人クラブ活動支出額(1998年)

(平成10年度老人クラブ活動実績報告書より作成)

業費の支出総額も高額である。とくに老人会番号6の老人会は、その支出総額に占める割合が50%を超えており、135,539円に達している。

一方、郊外の農村的な性格を有した内田地区は、老人会番号5の老人会以外で支出総額が10万以下におさえられ、3つの事業費の配分はほぼ均等している。また、その他の事業費は少なく、とくに老人会番号2の老人クラブはその他の事業費の計上はない。

郊外でも住宅地にある寿台地区では、老人クラブごとの支出総額に差異がみられる。また、事業費の配分にも老人クラブごとに差異がみられ、老人クラブの独自性が強いことを示唆している。例えば、老人会番号4の老人会は、生きがい・教養講座開催事業費を一切計上していないが、老人会番号3の老人会は43,000円の支出があった。このことは、老人クラブごとの支出総額がほぼ同額であっても、その活動事業費の配分に明確な差異があることを示している。

3つの事例地区の各老人クラブの事業費規模とその配分内容の差異として、まずあげられるのは中央地区の支出総額が内田地区の2倍以上になることである。また事業費配分に注目すると、ボランティア活動事業費の支出額には中央地区、内田地区、寿台地区で大きな差異はなかった。生きがい・教養講座開催事業費および健康増進等活動事業費の支出総額は、中央地区の支出総額が大きかった。一方その他の事業費は、中央地区が多く、寿台地区は支出総額と各々の事業費が老人クラブごとに差異があり、中央地区と内田地区とは異なる傾向を示した。

以上のことから、特徴として、老人会活動事業費のうち、生きがい・教養講座開催事業費および健康増進等活動事業費が松本市中心部の中央地区で多かったことがあげられる。これは、講師お礼代や物品費などにかかる諸経費や懇親会、総会、親睦旅行などの飲食代や交通費に使われることが多い。また、郊外地域の支出総額は少ないことが認められる。

Ⅲ-2 老人会年間活動内容

本節では、前節の結果を踏まえ、各老人クラブの支出総額がほぼ同額の傾向を示す中央地区と内田地区を選定し、活動内容の差異を検討する。1998年度における中央地区K老人会および内田地区R老人会の活動内容を第1表に示した。K老人会では、遊園地の清掃、懇親会、友愛訪問¹⁹、敬老祝い金の贈呈といった活動が多い。これらの活動は、狭い空間内での集いの機会という意味合いが強い。そのため、会合の際の飲食代としての経費が多くなることもある。これに対して、R老人会はゲートボール、世代間交流²⁰、神社の清掃といった活動を行っている。これらの多くは、屋外で体を動かして行う活動であり、経費もそれほどかからない。

老人会の活動内容には地帯によって差異が認められるが、その背景に老人会会員の加齢があると思われる。高齢になるにつれて、積極的に体を動かす活動は難しくなり、顔合わせの集いという企画が多くなる。このことは、懇親旅行費、飲食費、祝い金贈呈費などの費用が多くなることを意味する。中央地区R老人クラブの会員の年齢は、後期高齢期にあたる75歳以上が27名中20名を占め(第2表)、スポーツのような活発な活動は困難になったと考えられる。その結果、松本市中心部に位置する中央地区の老人会活動は、費用が比較的にかかる活動に特化していったといえよう。

Ⅳ おわりに

本研究は松本市老人会の活動内容の特徴を明らかにすることを課題として、事例地区を選定し、老人会の活動内容を分析した。

まず、松本市の高齢人口比率、後期高齢人口比率、老人会加入率、老人会会員1人当たりの支出額の各方面から概観した結果、1)市中心部2)郊外農村地域3)郊外住宅地域、の3地帯において松本市の老人会活動の特性が表れていることが確認できた。各々の事例地区として、中央地区、内田地区、寿台地区を選定した。

次に、事例地区別の単位老人クラブの支出を活

第1表 松本市における都市内部・郊外地域の老人クラブの活動内容（1998年）

月	活動内容（参加人数）	
	中央地区 K 老人会	内田地区 R 老人会
4	役員会、定期総会と懇親会の準備（6人） 遊園地投棄物の片付け（不明） 児童遊園地の除草と清掃作業（31人）	総会（24人）
5	定期総会兼懇親会（17人） 遊園地投棄物の片付け（不明） 児童遊園地の除草と清掃（13人）	春季ゲートボール大会（10人） 保育園での畑作業を通じた世代間交流（15人）
6	公民館と共催で町民に花苗や肥料を無料配布（35人） 市老人クラブ連合会体育祭参加（5人） 遊園地除草（不明）	市老人クラブ連合会体育祭参加（10人） 公民館の清掃奉仕（5人）
7	児童遊園地の樹木管理（3人） 遊園地投棄物片付け（5人）	役員会（5人） ゲートボール大会（10人）
8	遊園地除草（7人） 市老人クラブ連合会大会参加（3人）	町会盆おどり大会（15人） 清掃奉仕（10人）
9	町会と共催で町内一斉清掃と遊園地除草（18人）	神社の清掃奉仕（20人） 町会敬老会行事参加（15人）
10	婦人会と共催で友愛訪問と敬老祝い金の配布（5人） 町会主催の町民リクリエーションに参加（9人）	秋季ゲートボール大会（15人） いきいき健康講座（15人）
11	公民館と共催で、花苗の購入と植え付け（3人） 遊園地の落ち葉を堆肥化する作業と投棄物処理（2人）	収穫祭を通じた保育園交流事業（10人） 研修旅行（10人）
12	遊園地の投棄物処理と水洗トイレの凍結防止処置（3人）	歴史講座（5人） 学童交流伝承事業（10人）
1	なし	役員会（5人） 福祉広場健康講座（10人）
2	なし	高齢者交通座談会（15人）
3	地区内の他クラブと共催で高齢者交通安全座談会（不明） 役員会（不明） 友愛訪問の実施（不明）	役員親睦旅行（5人） 公民館の清掃奉仕（10人）

（聞き取りにより作成）

動内内容によって、ボランティア活動事業費、生きがい、教養講座開催事業費、健康増進等活動事業費、その他の事業費の4グループに区分して分析を行った。その結果、3地区に共通する傾向として、事業費別による活動内容に差異が認められた。支出額に大きな差がないボランティア活動事業費に比べ、生きがい、教養講座開催事業費、健康増進等活動事業費、その他の事業費は支出額に

大きな差があった。また、各々の事業費の内容も多岐にわたっていた。

3地区の活動事業費を比較すると、各々の地区で異なる傾向を示した。中央地区の老人会は、各単位老人クラブの支出総額が他の2地区より高額の傾向を示した。ボランティア活動事業費は低額で、生きがい、教養講座開催事業費、健康増進等活動事業費、その他の事業費には大きな偏りがみ

第2表 K 老人会の会員構成 (1998年)

性別	年齢
男	89
男	88
男	83
男	83
男	81
男	80
男	78
男	76
男	73
男	71
男	70
女	97
女	89
女	89
女	89
女	85
女	84
女	84
女	84
女	83
女	82
女	82
女	80
女	75
女	75
女	74
女	74
女	68

(聞き取りにより作成)

られない傾向があった。しかし、この事業費の多さは必ずしも当地区の老人会活動の活発さを示さなかった。活動項目には、清掃奉仕、懇親会、会合が比較的多く、その際の飲食代、茶菓子代、交通費に資金が当てられた。また、ゲートボールなどの高齢者向けの運動競技は盛んではなかった。このことは、老人クラブ会員の加齢が進み、体の自由が容易でなくなったことを示唆した。当地区での活動は、教養講座や運動は忌避する傾向が強く、顔合わせの機会となる会合や懇親会が中心で、資金もこれらに振り向けられた。

内田地区は支出総額が他の2地区より低く抑えられていた。ボランティア活動事業費、生きがい、教養講座開催事業費、健康増進等活動事業費はほぼ均等に配分されていた。その他の事業費は単位老人会ごとに差異があった。当地区における

活動は事業費と同じくバランス良く行われていた。清掃奉仕、講師を招いての教養講座の開催、ゲートボールをはじめ多岐にわたっていた。このことは、活動の活発さを示すとともに、支出額の多寡が活動それ自体に影響を与えないことを示唆した。

寿台地区は、支出総額、事業別の支出額が、各単位老人クラブの間で共通ではない。活動内容も様々で、共通点が少ない。単位老人クラブでの独自性が強く、ゲートボールに資金をかけている単位老人クラブがある一方で、健康増進等活動事業費には資金を使っていないクラブもある。

以上のことから、松本市における老人クラブの活動は、市中心部、郊外農村地域、郊外住宅地で活動に差異が存在することが明らかとなった。市中心部の中心地は、後期高齢人口比率と老人会加入率が高く、1人当たりの支出額も多いものの、各々の事業では非運動系の集いが多く、この諸経費に資金が当てられている。郊外農村地域は、後期高齢人口比率はそれほど高くなく老人会加入率が高い。このことは、高齢者の中でも比較的若い年齢の高齢者が多いことを示唆している。当地区では、1人当たりの支出額が少ないにもかかわらず、様々な活動を活発に実施している。支出総額が少ないことは活動の活発さに影響を与えていない。郊外住宅地は、後期高齢人口比率と老人会加入率が低いものの、1人当たりの支出額は多い。単位老人クラブの事業費別の支出額は一様でなく、活動内容にも共通点が少ない。このことは、各々のクラブで独自性が強いことを示唆し、住宅団地の造成による比較的新しい居住者層の地域的一体性の希薄さを示している。

本研究は松本市の3つの事例地区において老人会の活動内容を検討した。しかし、本報告は各事例地区における老人会活動の分析が中心で、地区間の詳細な比較や松本市全体での共通性の検討など行えなかった。また、老人会以外の高齢者を対象とした活動についても検討する必要がある。

高齢者の生活を充実した豊かなものにするのは、中年期と変わりなく社会との関わりを持ち続

けることにあろう。高齢者が積極的に様々な活動にかかわりを保つ重要な場になっている。今後、さらに参加できる老人会の存在は、高齢者と社会との研究を重ねていくことが望まれる。

現地調査の際には、松本市社会部高齢者福祉課 水橋文雄氏、松本市社会福祉協議会地域福祉課 深井まゆみ氏、松本市老人クラブ連合会 高見澤貞三郎氏、塚田平吉氏、水野昌春氏、各老人クラブ会長をはじめとする多くの方のご厚意とご協力を賜りました。また、本稿を作成するにあたり、斎藤 功先生、手塚 章先生、小田宏信先生、呉羽正昭先生をはじめとする筑波大学地球科学系の先生方にご指導を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

【注および参考文献】

- 1) 厚生省人口問題研究所 (1991)：『日本の将来推計人口』。
- 2) 前掲1) によると、65歳以上の人口が総人口の10%から20%に達するまでに要する年数は、フランス95年、ドイツ62年、イタリア48年などとなっている。しかし、わが国は22年しか要しないことを推測している。
- 3) 1987年には、女性の平均寿命はアイスランドの80.38歳を1歳以上上回り81.18歳になった。
- 4) 河野綱果 (1987)：人口高齢化における子供と老人の幸福。人口問題研究, 184, 1-18。
内野澄子 (1987)：高齢人口移動の新動向。人口問題研究, 184, 19-38。
- 5) 仙田裕子 (1993)：高齢者の生活空間—社会関係からの視点—。地理学評論, 66A, 383-400。
中鉢奈津子 (1998)：京都市における高齢者の外出行動。人文地理, 50, 172-187。
- 6) 老人福祉法第13条-1「地方公共団体は、老人の心身の健康の保持に資するための教養講座、レクリエーションその他広く老人が自主的かつ積極的に参加することができる事業を実施するよう努めなければならない。」とある
- 7) 長野県老人クラブ連合会 (1986)：『長野県老人クラブ連合会25年史』, 175p.
- 8) 全国老人クラブ連合会 (1996)：『老人クラブ運営指針』全国老人クラブ連合会, 2p.
- 9) 老人福祉法第13条-2「地方公共団体は、老人クラブその他老人の福祉を増進することを目的とする事業を行なう者に対して、適当な援助をするように努めなければならない。」とある。
- 10) 前掲8), 11p.
- 11) 他の地区との活動は松本市老人クラブ連合会が主催する事業に限られる。
- 12) たとえば、松本市総務部情報統計課 (1997)：『松本市の人口—平成7年国勢調査結果—』, 16p.
- 13) この活動は、ねたきりの高齢者や虚弱高齢者を老人クラブの会員が訪問し、話し相手、家事援助、外出援助、介護などの手助けを行い交流を進めていくことを目的としている。
- 14) この活動は、高齢者と若い世代との心のふれあいに基づく相互理解を目指した企画で、ジャガイモの共同栽培などがある。